

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Professor OGOSHI Tetsuya' s Curriculum Vitae and List of Works

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2388

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



御輿哲也教授履歴及び業績一覧



学歴・職歴

- 1974年3月 京都大学文学部文学科英語学英文学専攻卒業
- 1977年3月 京都大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程修了
- 1980年3月 同大学院英語学英米文学専攻博士後期課程満期退学
- 1980年4月 神戸市外国語大学専任講師着任
- 1981年4月 同大学 助教授昇任
- 1989年4月～1990年3月 イギリス・ケンブリッジ大学にて在外研究
- 1997年4月 神戸市外国語大学教授昇任
- 2009年4月～10月 同大学学生支援部長
- 2017年3月 同大学 定年退職

主な学会活動

- 1997年～2000年 日本英文学会編集委員
- 2007年～2008年 日本英文学会関西支部編集委員長
- 2008年～2009年 日本ヴァージニア・ウルフ協会会長
- 2008年～2012年 日本英文学会編集顧問
- 2011年～現在 京大英文学会評議員

主な業績

[1] 著書

1. 『「自己」の遠さ——コンラッド、ジョイス、ウルフ』 単著 近代文芸社
1997
2. 『〈移動〉の風景——英米文学・文化のエスキス』 編著 世界思想社 2007
3. 『言葉という謎——英米文学・文化のアポリア』 新野緑、吉川朗子、御興哲也
共編著 大阪教育図書 2017

[2] 論文

1. 「Marlow's Inconclusive Experiences——コンラッドの語りの技法をめぐる一考察」*The Albion* 25号 (京大英文学会) 1979
2. 「水の遠さ——ヴァージニア・ウルフのモチーフをめぐる」『菅・御興両教授退職記念論文集』(あぼろん社) 1980
3. 「分身の宿命——“The Secret Sharer”を中心に」『神戸外大論叢』第31巻4号 1980
4. 「“paralysis”の誘惑——*Dubliners*を読む」『神戸外大論叢』第33巻4号 1982
5. 「埋められなかった空間——*To the Lighthouse*をめぐる」『英国小説研究』第14冊(篠崎書林) 1984
6. 「「距離」の逆説——*Mrs. Dalloway*をめぐる」『英語青年』第130巻第11号(研究社) 1985
7. 「「聞く」こと不幸——*The Waves*をめぐる(1)」『神戸外大論叢』第38巻1号 1987
8. 「「言葉」をなくした道化——*The Waves*をめぐる(2)」『神戸外大論叢』第39巻1号 1988
9. 「『幕間』としての一日」『ヴァージニア・ウルフ研究』第8号 1991
10. 「ナルシスを真似ながら——『ジェイコブの部屋』試論」『神戸外大論叢』第43巻4号 1992
11. 「『灯台へ』再訪——J. Hillis Millerにならって」『英国小説研究』第17冊(英潮社) 1995
12. 「逃げる青年ステイヴン——*A Portrait of the Artist as a Young Man*を読む」『神戸外大論叢』第46巻1号 1995

13. 「擬態の悲劇——『西欧の目の下に』試論」『神戸外大論叢』第49巻6号 1998
14. 「“A Pure Woman”としてのテス——イギリス文学の中の女性像」『外国学研究』59号 2004
15. 「イーヴリンの勁さ」『英語青年』第150巻第2号 2004
16. 「軽さと重さの狭間で——ジェイムズとウルフ」『ヘンリー・ジェイムズと華麗な仲間たち』（英宝社）2004
17. 「オーランドーの描く夢」『〈移動〉の風景』所収 2007
18. 「「美」のあやうさの行方——ワイルドからウルフへ」『オスカー・ワイルド研究』第12号 2011
19. 「反復するストローク——『灯台へ』でリリーが得たもの」『言葉という謎』所収 2017

[3] 書評

1. 「Jean O. Love. *Virginia Woolf: Sources of Madness and Art*」『英文学研究』第56巻第2号 1979
2. 「深澤 俊 『ヴァージニア・ウルフ入門』（北星堂）」『英語青年』第128巻第11号 1983
3. 「小説批評のゆくえ——Helen Gardner と新「新批評」」『BROWSER』16号（大阪洋書）1983
4. 「岐路に立たぬ批評家——Lodge の *Language of Fiction* 第二版」『BROWSER』24号 1985
5. 「Lyndall Gordon. *Virginia Woolf: A Writer's Life*」『英文学研究』第63巻第2号 1986
6. 「Q. D. Leavis. *Collected Essays Vols. 1-3*」『英文学研究』第67巻第2号 1991
7. 「宮田 恭子『ウルフの部屋』（みすず書房）」『英語青年』第138巻第4号 1992
8. 「丹治 愛『モダニズムの詩学』（みすず書房）」『英語青年』第140巻第7号 1994
9. 「コンラッドを読むレビュー——温故知新（1）」『英文学春秋』第7号（臨川書店）2000
10. 「伝統の中にいるジョイス——Harry Levin. *James Joyce: A Critical Introduction*」『英語青年』第148巻第10号 2003
11. 「「精読」のむずかしさ——James Naremore. *The World without a Self*」『英文学研究支部統合号』第5巻 2013

[4] 翻訳

1. トニー・タナー 『姦通の文学——契約と違犯』共訳 朝日出版社 1986
2. ヴァージニア・ウルフ 『灯台へ』単訳 岩波文庫 2004

[5] 口頭発表

1. 「“paralysis”の誘惑——*Dubliners*の構成をめぐって」京大英文学会 1982
2. 「埋められなかった“space”——*To the Lighthouse*について」日本英文学会全国大会 於 関西大学 1984
3. シンポジウム「ウルフ批評の潮流をさぐる」ヴァージニア・ウルフ協会 於 桜美林大学 1994
4. シンポジウム「ブルームズベリー・グループについて(3)——先見性と保守性の間で」ヴァージニア・ウルフ協会 於 大手前女子大学 1999
5. シンポジウム「『幕間』について——語り・時間・共同体」ヴァージニア・ウルフ協会 於 帝京大学 2004
6. シンポジウム「『ドリアン・グレイの肖像』を再読する」日本ワイルド協会 於 慶応大学 2009
7. 「反復する stroke——『灯台へ』で Lily が得たもの」日本英文学会関西支部大会 於 武庫川女子大学 2015
8. シンポジウム「曖昧さの魅力——モダニズム期の女性作家たち」ヴァージニア・ウルフ協会 於 京都女子大学 2016

[6] その他

1. 雑誌記事：特集「20世紀のこの一点」『英語青年』第144巻第11号 1999
2. 辞書の項目執筆『20世紀英語文学辞典』(研究社) 約150項目を担当 2005
3. 雑誌記事：特集「私の3冊」『図書』697号(岩波書店) 2007